

子ども読書支援センターニュース No.152

2017. 1. 31

山口県子ども読書支援センター（山口県立山口図書館）発行

TEL083-924-2111 FAX083-932-2817

<http://library.pref.yamaguchi.lg.jp>

★メールマガジン「本はともだち～山口県子ども読書支援センターニュース」配信中！

メールマガジン「本はともだち」は、新刊紹介や県内の行事など、より充実した内容で配信中です。読者登録の方法は県立図書館のホームページをご覧ください。

【山口県子ども読書支援センター行事】

★幼児のためのおはなし会

○日時：平成29年2月14日（火）11:00～11:20 ○会場：山口県立山口図書館 ○対象：幼児

《1月のおはなし会で使った本》

『みんなでぼん!』 まついのりこ/脚本・画 童心社 1987

『どーこだどこだ』 カズコ G.ストーン/さく 童心社 2006

『もりのおふろ』 西村敏雄/さく 福音館書店 2010

『のってのって』 くろいけん/さく・え あかね書房 1982

『だれのあしあと』 ふくだとしお/さく 新風舎 2005

◎申込み、連絡先：山口県子ども読書支援センター（電話：083-924-2111 FAX：083-932-2817）

★子ども読書ネットワークフォーラム in 宇部

講演会「子どもと本の幸せな出会い」10:00～11:40 講師：張替恵子氏（東京子ども図書館理事長）

「おとなのためのお話し会」13:00～14:30 語り手：張替恵子氏&やまぐち読書推進グループ「本の森」

○日時：平成29年3月11日（土）○会場：宇部市立図書館 講座室

○対象：図書館関係者、読書ボランティア、子ども読書に関心のある人

○定員：講演会100名 お話し会50名（要申込み・先着順）○参加費：無料

○申込み先：宇部市立図書館（TEL:0836-21-1966 FAX:0836-21-3801）2月7日（火）受付開始

★子ども読書ネットワークフォーラム in 長門

ボランティアによる実践発表・意見交換会 10:30～11:30

「『しごとば』ができるまで—新幹線運転士、東京スカイツリー駅に停まります！—」ワークショップ型講演会

13:00～14:30 講師：鈴木のりたけ氏（絵本作家）○日時：平成29年3月19日（日）

○会場：長門市立図書館 視聴覚室

○対象：図書館関係者、学校図書館関係者、読書ボランティア、子ども読書に関心のある人、講演会は小学生以上の方

○定員：80名（要申込み・先着順）○参加費：無料

○申込み先：長門市立図書館（TEL:0837-26-5123 FAX:0837-26-2775）2月14日（火）受付開始

【新刊紹介】 価格は消費税抜き

<絵本—乳幼児から>

『まんまんぱっ!』 長野麻子/さく 長野ヒデ子/え 童心社 2016.11 ¥880

「まんまん、ぱっ!」「ばいばいばいばい」「ぐるぐるぐる～ん」「ぱくぱくぱくぱく」赤ちゃんの言葉は、ふしぎな言葉。まるでいのちの音楽のよう。赤ちゃんの発音しやすい音とカラフルな絵が赤ちゃんの興味を誘う。親子で楽しくコミュニケーションをとり、赤ちゃんと一緒に楽しむ、音と絵の絵本。母娘による2冊目の絵本作品。

<絵本—3, 4歳から>

『ここからだしてくれ〜!』 セドリック・ラマディエ/ぶん ヴァンサン・ブルジョ/え たにかわしゅんたろう/やく ポプラ社 2016.11 ¥1100

狼のおれがのんびり散歩してたら、穴に子どもが落ちていた。大変だと飛び込んだら、子どもはトンネルを通過して出ていった。でもおれには穴が小さすぎ。君の力で助けてくれよ。本を左に傾けて…今度は右に。お次は本を振ってみて…。そうして、本を逆さまに…。読者が本を動かしてお話を進めていく、フランス発の新感覚絵本。読み聞かせに向く参加型絵本。

『なつみはなんにもでなれる』 ヨシタケシンスケ/作・絵 PHP 研究所 2016.12 ¥1000

もうすぐ寝る時間に、なつみは、すごくいいゲームを思いついた。それは、なつみが何かのまねをして、それをお母さんが当てるもの。身近なものを、体をつかってまねするものの、ちっともお母さんは当てられない。どーしてわかんないの?!なつみの気持ちになって!!最後になつみがまねしたものは?くりかえしが楽しいまねっ絵本。ほのぼのとした親子のやりとりも見どころ。

<絵本—5, 6歳から>

『こわい、こわい、こわい?』 ラフィク・シャミ/文 カトリーヌ・シェラー/絵 那須田淳/訳 西村書店 2016.11 ¥1500

「こわい、こわい」と言いながら、猫に追われて帰ってきたネズミの母さん。子ネズミのミナには「こわい」がどんなものなのか分からない。そこで、ライオン、カバ、バッタなど出会った人に次々聞いたが、答えは見つからない。でも、最後にへびに出会った途端、ぞくぞく、胸はどっくんどっくん。そうか、これが「こわい」なんだ!子ネズミの成長物語。

<絵本—小学校低学年から>

『北極の宝物』 ダナ・スミス/文 リー・ホワイト/絵 はらいずみ/訳 あすなる書房 2016.11 ¥1400

北極の冬は、昼間も暗い白の世界。凍った地面は青みがかった白。ホッキョクグマは、黄色っぽい白…。少女が、白い世界で鮮やかな色を待っていると、空から不思議な音が降りてくる。身支度を整え、おじいちゃんと雪の積もった丘を登り、じっと待っていると、空いっぱいにもぎとオーロラが…。北極圏に生きる人々の暮らしと、オーロラを心待ちにする少女を描いた美しい絵本。

<読み物—小学校低学年から>

『うみのとしよかん』 葦原かも/作 森田みちよ/絵 講談社 2016.12 ¥1100

ここは海の中の図書館。みんなゆうらりとゆれながら、好きな本を好きな所で読んでいる。ヒラメの図書館員は、ずっと泳いでいなければならないマグロが読書できる方法を考えたり、子ガニたちがすぐに破ってしまう本の修理におわれたりと、本好きの魚たちのために奔走する。絵本の世界から創作文学を一人が読む段階の子どもたちにぴったりの「どうわがわいっばい」シリーズ。

<読み物—小学校中学年から>

『四年ザシキワラシ組』 こうだゆうこ/作 田中六六/絵 学研プラス 2016.12 ¥1300

亡くなったおばあちゃんの家から持ち帰った立派な本棚。小4の風太のクラスの学級文庫の棚として利用することに。なんとその

本棚に小さいじいさんみたいなきわらしが一緒にくっついてきた。きわらしは、風太に声をかけたり、手をひっぱり上げてクラス委員長に立候補させたり。地味に目立たずにいたい風太の生活が大きく変わってくる。第24回小川未明文学賞大賞受賞作品。

<読み物—小学校高学年から>

『ぐるぐるの図書室』 工藤純子、廣嶋玲子、濱野京子、菅野雪虫、まはら三桃/著 講談社 2016.10 ¥1400

「後戻りしたくてしょうがない人は、放課後、図書室に来てください」これって、図書室に来させるための先生の作戦？なんて思いつきながら、なんとなく図書室に入ると、そこには、見たことのない司書さんが…。デビュー10周年の人気児童文学作家5名による、図書室をテーマとしたリレー小説。脇役だった子が主役になり、ぐるぐる繋がっていく。巻末に5人によるスペシャル座談会も掲載。

『ホイッパーウィル川の伝説』 キャシー・アッペルト、アリスン・マギー/著 吉井知代子/訳 あすなろ書房 2016.10 ¥1400

父親と暮らすシルヴィアとジュールズの姉妹。ある雪の日、父親から絶対に行ってはいけないと言われていた、森の奥の「奈落の淵」へ一人で出かけたシルヴィアは、行方不明に。一方、同じ頃に、森で産まれた狐のセナ。セナは、他の何者かを助けるためにこの世に生まれてくる動物「ケネン」だった。特別な絆で結ばれた二人の姉妹と子ギツネの魂が響きあう、スピリチュアル・ファンタジー。

<読み物—中学生から>

『名もなき風たち サッカーボーイズU-16』 はらだみずき/著 KADOKAWA 2016.10 ¥1400

2011年、関東にあるサッカーの強豪校、県立青嵐高校に入学した遼介。強豪クラブやトレセンに所属していた強者ぞろいの1年生たちが、レギュラーやポジションをめぐる戦いの中で、互いの理解や絆を深めていく。遼介もその中でサッカーへの思いを確かめ、自分の居場所を模索する。「サッカーボーイズ」の後継作となる新シリーズ第一弾。『文芸カドカワ』連載を加筆・修正。

『スピーニー通りの秘密の絵』 L.M.フィッツジェラルド/著 千葉茂樹/訳 あすなろ書房 2016.11 ¥1500

ニューヨーク、スピーニー通りのぼろ家に、生活能力のない母親と住むわたし・セオ(13歳)。生き延びるためには、2か月前に死んだ祖父が残した「卵の下にある手紙と宝物を探せ」という言葉の謎を解くしかない。セオの養ってきた絵画の鑑識眼とセレブ女子・ボーディーの情報収集力を駆使し、祖父の従軍、ナチスの美術品略奪、過去に遡る秘密の絵の謎を追う。本書がデビュー作。

<ノンフィクション—小学校低学年から>

『いきものかいかた図鑑』 浅井ミノル、三枝博幸、成島悦雄/文 岩崎書店 2016.12 ¥4500

アゲハチョウ、クワガタムシ、メダカ、イヌ、ウサギ、ニワトリ…。小学校や家庭で人気の、昆虫や水の生き物、哺乳類や鳥の飼育の仕方を丁寧に紹介。捕まえ方や、手に入れる方法、餌の与え方や、成虫が死んでからの卵のかえし方など、精密画を多く用いて細やかに解説。1993年、1994年既刊『かいかたそだてかたずかん』3冊を合本化したもの。

<ノンフィクション—小学校中学年から>

『すがたをかえるたべものしゃしんえほん ⑩かつおぶしができるまで』 宮崎祥子/構成・文 白松清之/写真 岩崎書店 2016.11 ¥2200

遠い海で捕れた鰹を、切り身にし、煮て、いぶして、かびをつけて…。静岡県西伊豆町の創業100年以上の会社で、世界で1番硬い食べ物鰹節が作られる様子を紹介する。身近な食べ物はどうやってできるのか、材料からの変化を、多くの写真で紹介する写真絵本シリーズ。第3期は、他に「なっとう」「塩」「油」「お麩」の計5冊。3年国語科での活用が考えられる。

<ノンフィクション—小学校高学年から>

『企業内職人図鑑 ⑩伝統工芸品の三』 こどもくらぶ/編 同友館 2016.10 ¥2800

現代にあっても、ものづくりの心を失わず、日々、より良いものを作ろうとしている会社と、そこで働く人たちの仕事ぶりを、多くの写真と共に紹介するシリーズ。第10巻では、箱根寄木細工、南部鉄器、大阪泉州桐箆笥、奈良筆などの伝統工芸品を収録。知っておきたい重要な用語の解説や、社員の方へのインタビューも掲載。5年社会科、国語科での活用が考えられる。

<ノンフィクション—中学生から>

『宇宙を仕事にしよう!』 村沢譲/著 河出書房新社 2016.11 ¥1300

宇宙開発や天文学など、宇宙にかかわるさまざまな仕事をリードしている人たちに、宇宙作家クラブ会員である著者がインタビュー。夢を持ったきっかけや、どんな学校に進み、どんな勉強をしてきたのか、どうやって挫折を乗り越えてきたのかなど、宇宙に関する仕事の最前線で働く人々が中高生へ熱いメッセージを伝える。「14歳の世渡り術」シリーズ。

<研究書>

『思考を深める探究学習 アクティブ・ラーニングの視点で活用する学校図書館』 桑田てるみ/著 全国学校図書館協議会 2016.10 ¥2000

学校図書館を活用した探究学習について、その過程とスキルを6プロセス9アクションで示し、アクティブ・ラーニングの視点で行う探究学習の基本を解説。プロセスごとの学習活動を、コピー可能なワークシートや協働学習のポイントなどで具体的に示す。体系的に探究学習を進める手引きとなる書。『中学生・高校生のための探究学習スキルワーク』(全国学校図書館協議会)を大幅に見直したもの。

『児童文学論』 リリアン・H.スミス/著 石井桃子、瀬田貞二、渡辺茂男/訳 岩波書店 2016.10 ¥1340

1964年に日本を代表する3人の児童文学者によって訳され、児童文学研究の基本図書として読み継がれてきた名著が、岩波現代文庫として甦った。アメリカ・カナダの児童図書館員が、その経験と深い洞察のもとに、口承文学からファンタジーに至るまで、各ジャンルの特質に即して、よい本の評価基準を技術的、分析的に解き明かす。児童書の選書のよりどころとなる一冊。

【県内の動き】

★学校図書館を学ぶ会(出前講座)「山口県立高等学校図書館の現状について」

- 講師：吉川和夫氏(山口県教育委員会高校教育課普通教育班指導主事)
- 日時：平成29年2月5日(日)14:00~15:30○会場：防府市立図書館研修室(ルルサス防府3階)
- 申込み：不要 ○参加費：無料○照会先：学校図書館を考える会・やまぐち事務局・藤村(TEL:0835-21-3643)

★子育て絵本カフェ

- 内容：赤ちゃん絵本の紹介、読み聞かせ、子育てに関する本の紹介等
- 日時：平成29年2月15日(水)11:00~○会場：山陽小野田市立中央図書館2階和室
- 対象：妊婦さん、ママ、パパ○定員：10組程度(申込順)○参加費：無料
- 照会先：山陽小野田市立中央図書館(TEL:0836-83-2870)

★講談社「全国訪問おはなし隊」説明会・読み聞かせ学習会

- 日時：平成29年3月12日(日)14:00~16:30 ○会場：YIC ビジネスアート専門学校 2階 講堂1
- 定員：50名○参加費：無料 ○持参物：絵本1冊 ○申込締切：平成29年2月25日(土)
- 照会先：JPIC「おはなし隊」係 担当：岡本(TEL:03-5211-7282)

★山口県図書館協会児童読書研究部会 第2回研修会

- 「書いてきたこと、書きたいこと—児童文学作家・まはら三桃さんに聞く—」
- ゲスト：まはら三桃氏(児童文学作家)聞き手：横山真佐子氏(「こどもの広場」主宰)
- 日時：平成29年3月15日(水)13:30~15:00○会場：山口県立山口図書館 第2研修室
- 定員：50名(要申込み)○参加費：無料 ○照会先：山陽小野田市立中央図書館(TEL:0836-83-2870)